

井上雅樹 『Jリーグ入りを目指すサッカーチームのマネジメント』

【研究テーマについて】

日本のサッカー熱は一時的なバブルにとどまらず、ドイツの世界カップを控えて高い人気を誇っています。プロのサッカーチームも各地に誕生し、かつて日本にはこんなにサッカーチームがあったのかと驚かされます。これほどのサッカー人気になるとは、数年前のJリーグ誕生までは予想もしないことでした。

この論文は、Jリーグのサッカークラブの経営を扱ったものですが、筆者の井上さんはサッカーを愛する青年で、Jリーグのクラブに対しても強い期待を持っています。その思いがこの論文に結集しました。

個人的な思いは置いておくとしても、サッカークラブに自治体が財政支援や経営に関わることが多く、企業や一般市民からの寄付も得ている点からも、サッカークラブは半ば公的な組織としての一面を持っているといえます。公的な組織といっても、行政機関や非営利組織とは意味が異なりますが、税金や寄付金を活動資金の一部としているぶん、社会的な責任も負っていて、いい加減な経営は許されないのです。下手をするといわゆる第三セクター企業の失敗例になりかねない危うさを持つサッカークラブですが、それだけに経営の手腕が厳しく問われることになります。他の第三セクター企業にとっても、参考になるかもしれません。興味深い研究テーマであると思います。

サッカークラブという、いわば特殊な企業の経営を筆者は論じていますが、サッカークラブの経営危機からどのように立ち直り、成功に導いたのか。2つの事例を分析して、成功の要素を明らかにしています。

【研究方法について】

サッカークラブに財政支援をしている企業の担当者から、本音を引き出せたことは非常に価値のあることでした。3社からの「アンケート」は、量的に見れば取るに足りないかもしれませんが、質的には結論部分に向けて大きな説得材料となっています。憶測ではなく、当事者からきちんと話を聞いてものを書こうとする姿勢は、高く評価できると思います。サッカークラブの経営をテーマにした場合、サッカークラブの視点からだけ話を組み立ててしまいがちですが、この論文ではサッカークラブを支えるスポンサー企業の視点も重視したことで客観性を確保し、論文の説得力を高めています。

理論面では、サッカークラブ経営の分析に経営戦略とマーケティングの観点を生かそうと努めたことがうかがえる内容であり、よく努力したと思います。